研究計画概要

助成年度・種別	2025年度 若手研究助成
研究者	竹松 未結希
所属	立命館大学大学院 先端総合学術研究科 一貫制博士課程
研究テーマ	更生保護施設在所者の女性同士の関係性とジェンダー役割
研究計画概要	<p>近年、受刑経験のある人びとの再犯防止に向けた政策が推し進められるなかで、受刑経験のある女性をとりまく困難性も重要な課題として認知されつつある。女性受刑者の多くは、親族やパートナーといった親密な関係にある人物からの虐待・暴力等による被害経験、性別役割分業にもとづく子どもの養育やケア労働といった、複合的な抑圧を受ける立場にあることが指摘されている。しかしながら、こうした現状が指摘される一方で、矯正施設出所後の女性たちの生活実態とジェンダーとの関連については十分な検討がなされてこなかった。</p> <p>上記の問題意識のもと、本研究では、矯正施設出所者が選択する居住地のひとつである更生保護施設の在所者／元在所者の女性の経験に焦点を当てる。更生保護施設に在所する人びとは、偶然にも同時期に施設に在所することとなった関係性である。他方で、受刑や保護観察等の法的な拘束を受けていることや、受刑・更生保護施設在所に至るまでの生活史において同質の経験を有する関係性でもある。これらの同質の経験を有する人びとは、衣食住をともに過ごすなかで、自己を照らし合わせる「合わせ鏡」のような存在として互いを認識するようになることが予想される。</p> <p>したがって本研究は、更生保護施設への在所経験をもち女性へのインタビュー調査をつうじて、女性同士で取り結ぶ関係性が彼女たちにとってどのような意味づけがなされているのか、その特徴とジェンダーの関連を明らかにすることを目的とする。具体的な作業として、①更生保護施設入所経験者の女性同士の関係性が取り結ばれるプロセスの分析、②女性同士の取り結ぶ関係性の意味づけの分析を行う。これらをフェミニズム理論から検証することによって、矯正施設出所後の女性たちの生活実態の一端を明らかにし、ジェンダー研究に新たな知見と課題を示すことができる。</p>

<p>選考委員からの コメント</p>	<p>再犯防止に更生保護施設の果たすべき役割は計り知れない。しかしながら、専門的な視点からの研究は極めて少ないと言える。</p> <p>本研究は社会学の方法論に基づき「更生保護施設がもつ機能・役割をジェンダー視点」から明らかにしようとするもので意義のある研究である。何が在所者の主体性を回復させ、再犯防止に寄与しているのか実証されることを期待したい。</p>
-------------------------	---